

明治
壬申

布告全書

839

161

031092-000-4

839-161

布告全書 明治5年 第1冊

外史局

M5

BBC-0718



正明
中

布告全書

839
161

外史局編纂

各書全書

明治壬申正月新刊

布告全書明治五年第一冊

第一號 正月八日

仙臺縣ヲ官城縣盛岡縣ヲ岩手縣ト改稱候事



第二號 同日

明九日海軍始ニ付休暇ノ事

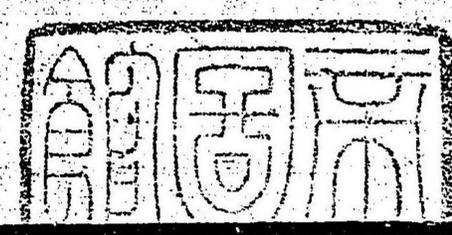
第三號 正月十二日

北白川宮薨去ニ付今十二日ヨリ三日ノ間歌舞音曲等
令停止候事

外史局編纂

布告全書

明治壬申正月新刊



布告全書明治五年第一冊

第一號 正月八日

仙臺縣ヲ官城縣盛岡縣ヲ岩手縣ト改稱候事

第二號 同日

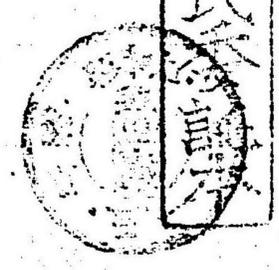
明九日 海軍始ニ付休暇ノ事

第三號 正月十二日

北白川宮薨去ニ付今十二日ヨリ三日ノ間歌舞音曲等令停止候事

曾山文庫

根岸憲助氏



第四節 府縣へ 正月十三日

戸籍法中心得方區々相成候ヶ条并改正ノ廉左之通ニ
候条本書ニ照準シ取捨可致事

戸籍編制ノ事

戸籍編制ハ来申年正月晦日現在ノ人員ヲ根據トシ同
二月一日ヨリ凡百日ノ間ハ右人員検査ノ日限ナレハ
右日限中ノ増減ハ翌年正月ノ取調ニ因テ改ムヘキ事
死者届方期限ノ事

死者埋葬所ニ於テ記録届方ノ儀毎年十二月中迄ノ分
翌年二月中ニ大藏省へ可差出事

戸長副給料ノ事

戸長副給料并入費ハ凡テ下方ヨリ取立相當支給可致

事

番号ノ事

番号ハ地所ニ就テ之ヲ數フ然レ凡戸數點檢ノ為メ戸
毎ニ番号ヲ貼スルハ地方ノ便宜ニ任ス可キ事

送籍證ノ事

凡送籍スル者華士族卒僧尼旧神官ハ戸長へ申立管轄
廳ノ證ヲ受ケ平民ハ戸長副連印ノ證ヲ可與事

但平民ノ出入臣民ノ出産死去等前月分取集メ翌月
戸長副ヨリ其廳へ可相届事

囚獄及徒流人ノ事

囚獄人及ヒ徒流人等其條令内ノ籍アル者ハ戸籍表へ
載セ他管轄内ノ者ハ寄留表中ニ書載ス可キ事

總計表并屆期限ノ事

戶籍及ニ職令寄留總計表共別紙雛形ノ通改正相成候事

但來申年ハ戶籍共七月中屆出爾後ハ一ヶ年分翌正月中取調二月ニ至可屆出事

寄留者ノ事

凡寄留スル者ノ屆書ハ官員神官華士族卒僧尼旧神官ハ當人兵隊ハ隊長平民ハ戶主傭主請人ノ内ニテ證印ニ且寄留ノ地ニ於テ一戸ヲナセシ者ハ其管下ノ者同様屆書ハ屋敷番号ヲ記シ其區戶長ヘ屆ケシハハシ戶長ハ總体ノ屆書ヲ集メ式ノ如ク寄留總計ヲ作り其願ヘ出シ其願之ヲ受ケ寄留表ヘ書載ス可キ事

戶籍總計書式

某縣第何區戶籍總計

何郡

何村

何町

合何ヶ村町

戶數 何軒

内家持 何軒
内借家 何軒

社 何十

寺 何十

華族何人同家族何人内女男何何何

士族何人同家族何人内女男何何何

卒何人同家族何人内女男何何何

僧何人同家族何人女男何何何

旧神官何人同家族何人女男何何何

同弟何人

尼 何人同弟子何人
平民何人同家族何人
人員總計

內 男何人
十四以下 何人
二十一以上 何人
六十以上 何人
八十五以上 何人
四十五以上 何人

女何人
十四以上 何人
八十五以上 何人
何人

廢疾 何人
囚獄 何人
徒刑 何人
出生 何人
流刑 何人
女男 何人

死亡 何人
右之通相違無之候
年号千支月

第何區戶長 氏名 印
同副 氏名 印

職分總計書式

某縣第何區職分總計

官員 何町村 何町村 合何ヶ村町
兵隊 何人
皇學 何人
神官 何人
從者 何人
支那學 何人

在皇全書明治五十年

英學	兵學	武術	筆學	工	雜業
女男	女男	女男	女男	女男	女男
何何	何何	何何	何何	何何	何何
人人	人人	人人	人人	人人	人人

佛學	醫術	算術	農	商	雀
女男	女男	女男	女男	女男	女男
何何	何何	何何	何何	何何	何何
人人	人人	人人	人人	人人	人人

人員總計
 右之通相違無之候
 年号千支月

兼何區戶長
 同副
 氏名
 印

寄留總計書式

其縣第何區寄留總計

何郡
 何町村
 何町村

合何ヶ村町

戶數
 何軒
 人員
 何人

內	官員	神官	華族	士族	卒	兵隊
女男	女男	女男	何人	何人	何人	何人
何何	何何	何何	何何	何何	何何	何何
人人	人人	人人	人人	人人	人人	人人

同家族	同家族	同家族	同家族	同家族	同家族	同家族
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
何何	何何	何何	何何	何何	何何	何何
人人	人人	人人	人人	人人	人人	人人

明治五十年

正 年 印

年	正	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	閏	月	年
年															
號															
戶															
數															
計															
總															
人															
男															
女															
官															
族															
家															
同															
神															
官															
族															
家															
同															
華															
族															
家															
同															
士															
族															
家															
同															
卒															
族															
家															
同															
兵															
隊															
僧															
族															
家															
同															
子弟															
同															
從															
者															
族															
家															
同															
皇															
學															
族															
家															
同															
那															
學															
族															
家															
同															
英															
學															
族															
家															
同															
佛															
學															
族															
家															
同															

各府縣ヨリ當府縣江守留

當府縣ヨリ

第五號

正月

来ル廿一日僧侶 朝拜廿二日ニ被改候事

第六號

正月十四日

今般北海道開拓使ニ於テ為替座三井組へ申付政府在
来ノ古金銀ヲ引當トシテ高二百五十圓ノ正金引換
證券十圓五圓一圓五十錢二十錢十錢六種ヲ製造シ来
ル十五日ヨリ發行致シ海關稅ヲ除クノ外租稅其他ノ
上納ハ勿論日用公私ノ取引ニ至ル迄總テ正金同様通
用セシメ候且右證券ノ儀ハ大藏省發行ノ證券ト同模
様ニテ開拓使印并次官ノ檢印ヲ押區別相立東京大坂

箱館三ヶ所ノ三井組ニ於テ新貨幣出来次第追々可引換尤至急引換申出候者ハ在来ノ二分判ヲ以引換遣候條諸民一毫ノ疑念ナク從前金札同様互ニ通用可致此段相達候事

第七節

正月十四日

澳國維納府ニ於テ来百年中博覽會有之 御國ニ於テモ此會ニ被列候ニ付各地方物品差出方等右事務取扱御用掛ヨリ時々指揮ニ及候條其旨可相心得事 但委細之儀別紙書面之趣参考可致事

来酉年澳地利國維納府ニ於テ博覽會ヲ催シ同年四月

開場同八月終局相成凡ソ同盟各國ニ於テモ此會ニ加入シ其國ノ天産人造品トモ差出シ學術工藝ノ進歩理世經濟ノ要旨ヲ著シ人生互相交易資益スル通義ヲ擴メテ益利用厚生ノ道ヲ盡スヲ主トス故ニ此會ニ出セル物品ノ品位ハ宇内各國ノ公評ヲ受ケ方法ヲ著セル諸説ハ衆學士ノ討論ニ供ス是ヲ以テ天産物ノ豐饒ナルハ其國土壤風氣ノ好キヲ著スヘク人造物ノ精良ナルハ其民智慧工藝ノ妙ナルヲ徴スヘク其著述スル諸説ノ精微ナルハ其窮理學術ノ深キヲ顯スヘキニ由リ其國ノ榮譽ヲ馳セ繁昌ヲ享クヘキモ否ラサルモ其物品ノ善惡工藝ノ精粗ニヨルヘシ 御國ニ於テ從前器械ノ發明ナシト雖凡人工自ラ精妙特詣ノ處ナシト云フベカラス殊ニ生糸蚕卵紙茶紙陶器漆器等ノ製造等ニ至テハ曾テ賞譽ノ名アリ此上益精良ニ邁ラハ終ニハ

東洋第一ノ物産トナリ宇内各國トモ之ヲ求需ニテ日用ノ要品ト
スルニ至ラハ國ノ榮譽ヲ馳セ繁昌ヲ享クベキハ言ヲ俟ザルベ
シサレハ 御國民能ク此趣意又躰ニ各物品并其説ヲ著シ名
聞ヲ弘メテ國益ヲ計ル事ニ注意スヘシ

○物品差出方之手續

九テ天産人造トモ何品ニ限ラス博覽會ニ出シテ各國ノ公評ヲ
受ントスルモノハ新古ニ拘ラス其品ニ差出シ人ノ名住所地名ト
價トヲ記シテ博覽會取扱局ニ出スベシ

○

博覽會取扱局ニ於テハ其品物ヲ鑒定シ代價相當ナリト極
ル上ハ其品物ノ預リ切手ヲ渡シ彼地ニ持渡リ博覽ニ備ヘシ後
賣拂ヘキ物品ハ其代價ニ諸入費ヲ算當シテ賣拂元代價ヲ

右切手ニ引替本人ニ渡スヘシ

博覽ニ備ル而已ニテ賣拂ハサル物品ハ彼地ニ於テ鑒定ノ上
褒賞ヲ受ヘキハ其褒賞ヲ添ヘテ右切手ニ引替本人ニ渡スヘシ

博覽ニ備賣拂ヘキ品ニテ其代價ヲ直ニ受取度モノハ品物差出
次第其代價相當ノ金高ヲ官ヨリ下渡スヘシ

彼國ヘノ往返船賃并 御國內運送旅費等ノ入費ハ一切官ニテ
給セラレ途中可成火破損ナキ様用意ニ萬一破損アル時ハ相當ノ金高
ヲ被下ヘシ

差出品ノ目的ハ博覽會布告書ヲ参考スヘシ

博覽會取扱局ニ物品ノ見本圖説ハ出来次第差出スベシ右ハ洋文ニ反
譯スルノ時日モ懸レハ本年六月晦日ヲ過ヘカラス

○諸説著シ方之手續

天産人造ニ限ラス其品アレハ必其方法アリ方法アレハ必其説アリ故ニ
其品ヲ著スト雖氏其説ヲ著サレハ博覽ニ供ストモ無詮事ト云ヘシ
依テ其説ヲ著ス一尤肝要トス而シテ其説ヲ著ス手續ハ左ノ件々
ヲ目的トスベシ

何業何品ニ寄ラス初發思ヒ創メシ人ノ名及其年代ヨリ歷代種々ニ
變革シ来リシ緣由ト追々發明ノ説アルヨリ其業其品ノ日ニ精良ニ
至リ古拙シテ今日巧ニ今日拙シテ古巧ナリシモノアリ其類未ヲ著
スヘシ

器物ノ變革古今ノ異ナルハ凡テ圖解ヲ以テ著スヘシ
諸製造ノ方法及ヒ製造ニ用ユル元質ノ物器ハ漆器ヲ製スルニ漆木
ノ圖ヨリ其液ヲ取り之ヲ製シ之ヲ塗リ之ヲ乾シ金銀蔴繪ヲ施
ス方法トモ精ク述ル如ク著スヘシ

農業及草木培養ノ諸術凡テ前條ノ通り著スヘシ

天産人造ノ物品代價古今ノ相違ヲ著スヘシ

製造物品凡一年出来高昔ト今トノ相違并國用ニ供スルト外國ニ輸
出スル員數ト其代價ノ高ヲモ著スヘシ

但天産物モ之ニ準スヘシ

其説ヲ著スモノ其名住所地名凡記シテ出スヘシ之ヲ洋文ニ反
譯シテ彼地ニ頒布シ其名ヲ顯スヘシ
其著説ニヨリ相當ノ御手當モ被下ベシ

右之通ニ候事

博覽會事務局

博覽會事務局取扱御用掛人員

參議大隈重信
外務大臣島宗則
大藏大臣井上馨

○
ウイン府 澳地利ニ於テ來一千八百七十三年博覽會ヲ催ス
次第

第一ヶ条

澳地利皇帝陛下ノ敎助ニテ一千八百七十三年ニ於テ萬國展覽會
ヲ催スハ世界各國ノ人民當今ノ開化ト經濟ノ有様ヲ著ハシ且其
進歩ヲ助クルノ目的ニ有之夫カ為ニプラテル公園於テ別ニ廣大
ノ建物ヲ作り博覽會ハ一千八百七十三年五月二日始リ同
年第十月三十日ニ終ルヘシ

第二ヶ条

展覽會品ハ左ノ二十六類ニ別ツ

第一區

鑛山ヲ開ク業ト金屬ヲ製スル術ノ事

第二區

農圃ノ業ト林木ヲ養フ術ノ事

第三區

化學ニ基キシ工作ノ事

第四區

人作ニテ成リシ食物飲料ノ事

第五區

組織衣服品製造ノ事

第六區

皮革并カウチヨクノゴムノゴム工作ノ事

第七區

金屬品製造ノ事

第八區

木器品製造ノ事

第九區

石器土器硝子品物ノ事

第十區

細小品ノ事

第十一區

紙楮類製造ノ事

第十二區

書画并圖取ノ術ノ事

第十三區

機關及物品ヲ運送スル器械ノ事

第十四區

學問ニ關係スル器械ノ事

第十五區

樂器ノ事

第十六區

陸軍ニ付テノ事

内ニ兵卒ノ武器兵粮并病人又ハ水陸ノ戦ニ傷害ヲ受レ者ヲ療養スル丁ニ付テノ器械術業アリ

第十七區

海軍ニ付テノ事

内ニ河海ニ航行スル丁ニ付テノ事船艦製造ノ事出船ノ用意ノ事
事象組ノモノニ付テノ事港ヲ作ル丁海岸ニ点火スル丁難船ヲ
濟フ等ノ術アリ

第十八區

工業ノ事

内ニ道路及鐵道ヲ作り水樋及土中ノ水ヲ扱ク術河流ヲ治メ并溝
瀆家室ヲ作り公院即集議院演劇場病院牢獄浴室洗濯所ノ類ヲ建テ其内部ノ
空氣ヲ純清ニシ温暖ヲ取ル術等ニ付テノ繪圖雛形アリ

第十九區

都市ノ人民ノ住居其内部ノ摸樣飾物器品家具ノ事

第二十區

田舎人ノ住居并其附屬ノ建物及内部ノ摸樣器品家具ノ事
右ノ二區ニテ各國人民ノ住居ノ都合ニ依テ其好ミヲ知ルヘシ

第二十一區

各國ノ家ノ内部ノ用ノ為ニ出来セシ器品ノ事

此ハ飾物陶器織物并家具ニ付各國ニテ人々ノ盛美ナル風雅ノ
思ヲ著ス為ナリ

第二十二區

美術西洋ニテ音樂畫學像ヲ作ル術詩學等ヲ美術ト云フ博覽場ヲ工作ノ為ニ用フル
事

此博覽場ノ利益ニ依テ人民ノ好尚ヲ盛美ニシ且術業ノ理ニ明カ
ナル丁ヲ著スヘシ

第二十三區

神祭ニ關係スル術業ノ事

即神祭ノ為用ヒラル、術業ヲ著スヘシ

第二十四區

古昔ノ美術ト其工作ノ物品ヲ美術ヲ好ム人并古實家展覽會
へ出ス事

人々自家ニ貯蔵スル術業ノ物品ハ常ニ其親近ノ者ノ之ヲ
見ル故今展覽ニ出シ万人ニ示シ且術業家ノ知識ヲ廣ムル
為ナリ

第二十五區

今世ノ美術ノ事

但一千八百六十二年ニ於テ倫頓ノ展覽會ノ後出来セシ文ノ

品物ナリ

第二十六區

少年ノ養育ト教授ト成人ノ後修學ノ事

即少年ヲ降生ノ時ヨリ入學迄ノ間養育シテ身体ト知識

ヲ良好ニスル丁ニ關係スル手段ノ事

教授ノ事

即習學々校ヨリ大學校迄ニ關スル事

諸學科ノ修業ニ關係スル事

即作者ノ著述書新聞紙會講^{ビブリア}文庫スタテスチクノ圖画

等其内ニアリ

第三ヶ条

歷代ノ器械道具手續製造ノ法
管ハ縫物織物ノ器
械傳信機馬真其外ヲ列

シテ種々術業ノ弥進ムヲ著シ之ヲ以テ發明ノ來歴ヲ知ラセ
且器械ト手ニテ製シタルモノヲ列シ器械カ手ノ業ヲ除キ又ハ
手ヲ助ケテ其切ヲ益スルヲ知

第四ヶ条

歷代同類ノ品物ノ見本雛形ヲ列シテ種々ノ工作ノ勢盛大ニナ
リ其人好ニ關係シ及人好ヲ變セシムルヲ且種々ノ時代ニテ經
濟ノ目的ヲ以テ其要用ナルヲ明スヘシ

第五ヶ条

工作ヲ進マヌル學問ノ勢ヲ見スル為メ屑餘ヲ利益ニシテ使
フヲ弥盛ナル義ヲ示シ夫カ為ニ屑餘及夫ニテ作りシ物品ヲ
列シテ見スヘシ但倫頓ニテ一千八百五十一年ノ展覽會ノ後ノ
發明ノミヲ著スヘシ

第六ヶ条

諸物品ノ來歴ヲ知ラシムヘシ即製造ノ都會ニテ世界中
要用ノ産物上ニ付可成丈ケ遠キ世ニ遡リ五年目毎ニ其
價ノ變リシヲ表ニテ示シ且見本ヲモ加フヘシ

第七ヶ条

各國ニテ其産物ヲ交易スルヲ判然ニスルタメ世界交易ノ様子
ヲ見セ右ニ付世界中要用ナル交易ノ港ノ品物ノ見本ヲ列シ每
物其出所行先輸出入ノ數其價ヲ知ラセ其外表ト圖ヲ以テ十年前
ヨリ今迄ノ間各港ノ航海ト交易ノ往來ヲ見スヘシ

第八ヶ条

表ト圖ニテ展覽會ヲ明カニスル助ノ前文ニ合ノリ此手段ヲ何
ニ依ラス用ヒ尤一千八百五十一年倫頓ノ展覽會ノ後各國開化ノ進

歩ヲ公表ニテ見スル義第一等ノ目的ニ有之譬ハ農業ノ為用ニ
ル地面ノ廣サ毎年ノ産物ノ高及價其他ノ價貨幣ノ價鐵道
人口其外度々前ノ展覽會ニテ同六十二年巴里ニテ同六十
年ニテ処ヲ今度ノ展覽會ニ比較シタル表ヲ見スハ尤展覽會
中ニ區別シタル展覽場ヲ見テ各國産物ノ盛ナル義判然トナ
ルヘシ

展覽品ニ付委曲ノ次第即持主ノ名品ノ類目及直段ヲ其品ヘ
加フヘシ乍然直段ヲ著ハセル義持主ノ勝手ニ依ルヘシ其外工作
ノ來歴ト要用ノ譯其次第ニ盛ナル丁年々出來品ノ數前年ノ
展覽會ニテ只引札ニテ書載セラレシ処今持主ノ額ト要用
ノ譯ニ依テ別段ニ書付ヲ以テ之ニ加フヘシ

第九ヶ条

展覽會ハ尤人智ヲ開ク目的有之ニ付新奇ニテ未タ大ニ廣マラ
サル術業ヲ試ムヘシ且展覽品ノ中其性質他物ノ如ク明カナラ
又品物ヲ試ムヘシ譬ハ酒ヲ暖メ其水ヲ抜ク器械ヲ用ユ
火ヲ用ユル丁風船ヲ揚ル丁破裂ノ藥ヲ用ユル丁蒸氣
力ノ耕作器械ヲ用ユル丁平路ニテ蒸氣車ヲ遣ル丁蒸
氣力ノ消火器
右諸類ニ付其心得アル人會議スヘシ且譬ハ
砂糖ヲ取ル大根其他ノ物ヲ作ル為メ用ユル器械ヲ以テ各國ノ
人民競ヒ試ミ且講釋スヘシ

第十ヶ条

暫時ノ間展覽會ヘ出シ置ヘキ終始置ク丁ハ其性質ニ適セ
又モノ左ノ通り
家畜馬牛綿羊豕犬鳥ノ類
野獸魚類

死鳥ノ類并野獸肉ノ脂并乳ニテ製セシ種々ノ食物

圃ニテ作りシ新鮮ノ果物菜蔬花草ノ類并農業ト林木ヲ
養フコトニ損害アル雜草木類

展覽會へ出し置家畜ノ利徳ヲ定ムル為メ屢試ル手段アルヘ
シ

衆馬ヲ展覽會へ出し置聞各國人相競テ競馬ヲ催シ賞美ヲ
與フヘシ且種々ノ遊樂ノ手段競船等及各國風ノ遊ヲ人民ノ
催ス目的有之

右暫時ノ間差置クヘキ品物ノ内實地試験ノ手段アリ且夫
ニ關係シタル要用ノ應ハ論スヘシ

譬ハ乳類ニテキースポートルヲ作ル諸方ヲ實地ニテ試ム
ヘシ

展覽會へ出し置ク食物ヲ人民ニ食シ試シシムル為メ別ニ食
堂ヲ建ヘシ其内ニテ亭主謝金ヲ取テ食物ヲ備ヘ賣ルヘシ

第十一條

展覽會ノ時要用ナル應ニ付議論シ得ル為メ各國人民ノ集會
アルヘシ則其議論ニナル應或ハ展覽會へ出し置シ品物ニ依
テ起リ或ハ別段ニ題ヲ出スヘシ別段ニ學者術者教師醫師術
業ノムセウハノ名代而取學者工部師商法ト工作寮ノ名代バン
クト引受會社ニ關係シタル人農業林木ヲ養フ業鑛山金屬製
造其外ニ關係シタル人ノ集議可有之
議スヘキ應ハ今迄左之通り目指シ候則發明ノ株ノ議論人好
ヲ善ニ變スル議論而取ヲ盛ニ廣ムル事
運送ノ手當ヲ更ニ善スル事器械ノ利ヲ盡ス事

食物ノ直段ヲ下落セシムル事弊ハ産物ノ數ヲ増シ中ノ有
株ヲ改メ料理カノ改革シ食
保ツテ長ク幼年ヲ養テ始ノ教ヲ施ス事体操ヲ以テ身体ヲ
健全ニスル今世ノ議論女子ヲ教育シ其業類ヲ廣ムル事ニ
有之

第十二ヶ条

展覧會ニテ可成丈地球上西ヨリ東ヘノ順ヲ以テ各國ノ産物
展覧場ヲ備フヘシ

第十三ヶ条

第二區ニ書セシ品類ヲ其性質ニ依テ同時ニ數所ヘ入置
事ハ其持主ノ勝手ニ依テ場所ヲ定ムヘシ

第十四ヶ条

展覧ノ為置シ品物善惡ヲ決定スル事各國ノ人民中ヲ撰ン

テ之ニ任スヘシ

展覧會ヘ品物ヲ出セシ者其品物ヲ右ノ者ノ決定ニ任スヘキ
ヤ否ヤ前以テ断ルヘシ不承知ノ時ハ其品物ニホールコンクル
他ノ物ト比ノ詞ノ札ヲ附ヘシ
較セヌト比ノ詞ノ札ヲ附ヘシ
其決定セシ者ヨリ與フル褒賞左ノ通り

第一

美術ノ業ニ付美術ノ賞典ノ細形

第二

其他品ノ賞左ノ通り

一前度ノ展覧會ノ時物品ヲ出セシ者若シ今度出セシ時其品
物更ニ美ヲ加フルト明ナレハ進歩ノ印ノ圓形ヲ與ヘシ
一今度始テ展覧會ヘ品物ヲ出スモノ若シ其品物經濟ト術

業ノ目的ヲ以テ隔段ノ利徳アレハ切ノ印ノ圓形ヲ與ヘシ
 一 色形其外々面ノ模様風雅ヲ宗トシタル品物ヲ出セハ風雅
 印ノ圓形ヲ與ヘシ
 一 前度ハ賞詞ヲ與ヘシ処今ハ褒稱ノ証書ヲ與ヘシ

第三

一 品物ヲ出セシモノガ其術業ノ徳ヲ得ル為隔段ニ世話セシ
 者アリト告レハ世話ノ人圓形ヲ與ヘシ

第四

一 教育經濟及職人ノ身体及心智ノ事ニ付能ク配慮シタルモ
 ノト會議人等ニハ隔段ノ栄賞ノ証書ヲ與ヘシ
 第十五ヶ条
 一 展覽會ヲ行ヒ其決定人ヲ撰集シ且其人ノ處置ノ有様

引札書報其外ノ委曲ハ別段ノ規則ヲ以テ極ムヘシ

一千八百七十三年第九月十六日

ウインニ於テ

展覽會總督

ライ子ル王

同執事

フランシスワルツセルボル



一千八百七十三年ウイン府ニ於テ催スヘキ展覽會ノ次第
 品物其外展覽會ヘ供フルモノ、場所左ノ通區別ス

第一區

鑛山ヲ開ク業ト金屬ヲ製スル術ノ事

第一類

フオレール 此ハ山ヨリノ焚クヘキモノ即石炭及石膏其外ノ
事

第二類

鑛及純精シタル金屬

第三類

右二類ニ載セサル鑛類譬ハ塩硫ガラフィット石炭ノ化石ニテ
石華ノ質
類ノ事

但家其外普請ニ付用フル品ハ第十八區ヲ見ルヘシ

第四類

混和シタル鑛ノ事

第五類

鑛山ヲ掘ル術金屬ヲ製スル術并ニ金屬ニ關係シタル業ノ

繪圖雛形及山ニ掘レ穴ノ圖

第六類

地質學ニ關係シタル術ト畫圖

第七類

鑛山ヲ掘ル術金屬ヲ製スル術及地面上ノ鑛ヲ得ル義ニ關
係シタル器械手段ノ事

第八類

鑛其他生産ノ表數
メタステクニクニオン

第二區

農圃ノ業ト林木ヲ養フ術ノ事

第一類

食物ト藥ニナル植物

但取リ立ノ果物菜蔬ハ此処ニ入レス暫時間ノ展覽會ヘ出ス
ヘシ

第二類

煙草其外人民ノ服シテ醉ヘキ植物
たこちツク

第三類

糸ニ作ルベキ植物類譬ハ木綿、麻、亞麻ニテ支那其外取立
ノマ、デ賣買スヘキ植物

第四類

蠶ノ事

第五類

獸類カラ得ル物品ノ生ノマ、ノモノ譬ハ獸ノ滑サス皮羽毛ノ類

第六類

綿羊ノ毛

第七類

林木ヲ養フ術ノ為ニ出来シ産物譬ハ材木滑ス藥木液繪ノ具
木皮其外木炭茵ノ類

第八類

泥炭及其類ノ産物

第九類

糞物ノ類

第十類

農圃ト林木ヲ養フトニ關係シタル繪圖雜形及農業ノ目的
アル土地ノ性質ヲ示ス繪圖

第十一類

農業ト林木ニ關係シタル測量ホルスタタツク林木ヲ養フコトニテトクトノ稱量ヲ取ル術

第十二類

右産物ヲ作り運送シ儲有スル等ノ手段ヲ著ス事

第十三類

圃ヲ作ル事暨ハ圃業ニ關係シタル辨形繪圖硝子ノ植木室圃ヲ潤ス手段ノ事

第十四類

圃業ニ付新發明ノ工風ヲ用フル事

第十五類

右諸業ニ關係シタル生産ノ表數

但右諸業ニ付暫時間ノ展覽會ノ条ヲ見合スヘシ

第三區

化學ニ基キシ工作ノ事

第一類

工作ト藥ノ為用フル化學ノ産物譬ハ酸氣塩氣等其外化學術ノ品

第二類

ファルマキー藥ヲ製スル術ノ産物譬ハ藥水水ノ類

第三類

膏油ニテ作りシ産物譬ハステアリン西洋燭ノ質、油ノ酸氣ギリソアリンノ藥中ニ在ルモノ、石炭、蠟燭

第四類

水氣ナキダストラーチオン湯氣ニテ暖メテ驅スモノノ産物譬ハ純精

ノ石炭油瓦土ノ油、パラフィン此モ蠟ノ質、フニールノ酸氣、ニリン及アニリンノ繪ノ具

第五類

ヴラテール油及香物ノ類

第六類

煙硝類

第七類

鑛金屬、草木ヨリ取りニ繪ノ具

第八類

木液即洗ヒ塗リ晒ス液ノ類、ハ封蠟、アルブミン、蠟魚ノ腸囊、荻皮、スタルチン、デキストリ

第九類

化學術ノ産物ヲ得ル為ノ手段ヲ著ス事

第十類

右化學ノ生産ノ表數

第四區

人作ニテ成リシ食物飲料ノ事

第一類

粉又ハ粉ニ基キタル品物、焼キシ麥、麥酒ノ作及ヒ其ニ基トシ品物

第二類

砂糖、含、別、其外ノ事

第三類

焼酎、リキ、ウル、焼酎ニ基キ、酒等

第四類

葡萄酒等

第五類

麥酒等

第六類

酸ノ事

第七類

永保ノ為メ箱入ノ食物及エキストラクト
此ハ化學ノ別ノ手段ニテ食物ヲ蒸シテ無用ノチヲ除キ有用ノチヲ取 譬ハ肉ノエキストラクト
液ヲ抽出シテ 蒸詰タル乳永保ノ為箱へ入レシ肉及野菜モノエル。プスガフルスト
豆ト肉ノ蒸詰タル兵糧

第八類

煙草及其類ノ品物

第九類

菓子ヲ作ル品物シヨコレト及コヒーノ代ニナル品

第十類

右品類ヲ作ルルニ關係スル業術ヲ著ス事

第十一類

右産物ノ表數

第五區

組織衣服品製造ノ事

第一類

洗ヒシ羅紗糸ニ繰ルヘキ獸類ノ毛譬ハ駱駝羊ノ毛及夫一テ作リシ織物譬ハ反物又ハ切レ地ブエルト
西洋ノ帽子ヲ作ル者 茵席、アラシケツト、シヤルス
身ノ体ヲ覆フ者 交織譬ハユーニシククロス及パイルツ

ノ類

第二類

木綿及其代ニナル品物及木綿ノ綴糸織物絢物

第三類

麻亞麻ユーテ其他麻ニ似タル草ノ織緯等及夫ト葉ニテ作
リシ織物綴糸編物譬ハ婦人ノ笠茵席等蓋バスト植
物中
部ノ薄ヤ毛張金ノ織物絢物ノ類

第四類

生糸ゲレーシ綴リシ糸糸屑及糸ニテ作リシ品物

第五類

糸店ノ品物金銀ノ糸ニテ作リシ織物其他

第六類

トース女ノ服ノ領ノ事
杯ニ付ルモノ

第七類

編物ノ類スメリヤ

第八類

仕立シ衣服等譬ハ羽織并笠帽子婦人ノ頭飾履類手袋濡伴ノ類
其他

第九類

經師方ノ品物譬ハ其作リシ家具臥床ニ關係シタル品類

第十類

縁花及飾ニ用フル羽

第十一類

右ノ品物ヲ作ル丁ニ關係スル術業ヲ著ハス事

第十二類

右産物ノ表數

第六區

皮革并カウチヨクノ類工作ノ事

第一類

皮ト皮ニテ作りシ品物繩ノ類巾着ノ類馬具師ノ品物ハルチ
メント厚キ紙其他ノ品ハ此ニ載セテ

第二類

毛アル皮ノ事

第三類

カウチヨクトグクペルシヤ此セゴハノ類ニテ作りシ品物
但シ學問ニ關係スル品物ハ此ニ載セス

漆皮類水ヲ透サ又反物

第四類

右ノ品類ヲ作ルノニ關係スル術業ヲ著ス事

第五類

古産物ノ表數

第七區

金屬器品製造ノ事

第一類

金銀製ノ品物及玉細工ノ品物

第二類

鐵及鋼ノ品物ノ事

但器械普請ニ用フル物及學問音樂ニ關係スル器品ハ此

載セス

第三類

右ノ他ノ金屬及混和シタル金屬ニテ作リシ物

第四類

兵器ノ種類ノ事

但戰爭ノ武器ハ此ニ載セス

第五類

右品物ヲ作ル丁ニ關係スル手段ヲ著ス事

第六類

右産物ノ長數

第八區

木器品製造ノ事

第一類

大工ノ作ル品物譬ハ板ノ間窓戶其外

第二類

指物屋ノ品物

第三類

割リシ木ニテ作リシ品物家根板水ヲ洗ス器城

第四類

木ノ糸及夫ニテ作リシ物品

第五類

木藏服准米ノ事

第六類

轆轤細工ノ品物

第七類

彫刻物ノ事

第八類

コロップニテ作りシ品物

第九類

編製ニタル物篋箱

第十類

木ヲ塗ル事木品ニ腐蝕劑ニテ彫刻シ及金箔ヲ附ル事

第十一類

右品物ヲ作ルルニ關係スル手段ヲ著ス事

第十二類

右ノ産物ノ表數

第九區

石器土器硝子品物ノ事

第一類

石瓦土セメントノ品物譬ハ挿砒石石臼天生ト人造ノ大理石ノ品物家ノ飾物欄間ノ様ノ細工

第二類

焼土ノ品物譬ハ挿鍋飾物火燵土像

第三類

硝子ノ品物譬ハ凹ミクハ平ノ硝子ノ鏡作りシ玉真珠

第四類

右品物ヲ作ルルニ關係スル手段ヲ著ス事

第五類

和書全集明治五年第一

三七

右産物ノ表數

第十區

細小品ノ事

第一類

海ノ泡水象牙鼈甲靴ノ貝螺骨墳及漆ノ品物

第二類

皮卜青銅ノ風雅ノ細工

第三類

杖鞭雨傘日傘扇ノ事

第四類

拂刷ノ類

第五類

子供ノ玩物類

第六區

右品物ヲ作ルルニ關係スル手段ヲ著ス事

第七類

右産物ノ表數

第十一區

紙楮類製造ノ事

第一類

紙及澆紙ノ類

第二類

彩色紙唐紙花牌

第三類

パピール工紙 紙 板月 カルトンパピール 種紙ノ紙ノ管
如キモノ

第四類

書画圖取ノ道具

第五類

本ヲ綴ル人ノ物品 カルトナジエポルテール
手帳

第六類

右品物ヲ作ルニ關係スル手段ヲ著ス事

第七類

右産物ノ表數

第十二區

書画并圖取ノ術ノ事

第一類

出板ノ事

第二類

木板ノ事

第三類

銅板及鋼板ノ事

第四類

石版彩色版其外ノ事

第五類

寫真画ノ事

第六類

彫刻及ギリシエニル器機ヲ以テ做細
彫刻スル術

第七類

小紋形及家其他ノ飾ヲ画ク事

第八類

右品物ヲ作ルニ附テノ手段ヲ著ス事

第九類

右産物ノ表數

第十三區

機關及物品ヲ運送スル器械ノ事

第一類

モタール壁ハ蒸氣器滅汽ヲ製スル手段ト機關トモトモ子^{鉄ニ}車^回

水車水柱ノ機關此ハ水カニテカロク機關取ルタメモノエレクツ

ロマグ子チクノ機關風又ハ煤氣ニテ回ル機關

第二類

カヲ移ス機關壁ハ滑車

第三類

物ヲ作ル機關壁ハ鑛山ヲ掘リ金屬ヲ製シ金屬及木ヲ以テ物

ヲ作リ糸ヲ繰リ織物編物縫物及メリマスヲ作ル機關アノレトエ

ウル其外ノ及物ヲ潤スル術及物品ヲ練ル機關挾ミ切ル機關センツリ

ノ中心ノ機關及物ヲ染メ及晒ス機關本綴ニ關係シ活字ヲ

鑄ル機關其外出板石板銅板彩色板ノ機關砂糖及ヒ油麥酒

焼酎ニテリイン石礮蠟燭デストラーチヨン水附木粉ヲ作り且

農業ニ關係スル機關

第四類

前文ニ載セサル機關壁ハポンプ機關吹ク機

其外ウエンテラトルノ機關

第五類

機關ノ内カラ取ニ要用ノ分

第六類

鐵道ヲ以テ人物ヲ運動スル機關譬ハ蒸氣車ト其屬車及其
要用ナル部分ダレニ子ノ自轉車類鐵道ニ付入用ノ機關ヲ製
造又ハ修復スル器械及製造場

第七類

積雪中ニ道ヲ開ク器械

第八類

ニノノートル蒸氣ノ勢ヲ測ル器械ジエナメートル器械ノ早サヲ測ル道
具

第九類

市中ニテ運送スル馬車其外ノ事

第十類

右産物ノ表數

第十四區

學問ニ關係スル器械ノ事

第一類

算術天門究理化學ノ器械譬ハ測量重ヲ測リ分割スル器
械且エレクトリック及ヲプデック目印ノ合圖ノ傳信機ノ手段

第二類

躰部ヲ切斷スル器械ト夫ニ關係シタル工作ノ品譬ハ作リシ手
足及入齒ノ類

第三類

時計及其要用ノ部分譬ハヒロノスコップ、ヒロノカラフエレクトリック
ノ時計

第四類

右産物ノ表數

第十五區

樂器ノ事

第一類

音樂ノ器品

第二類

右ノ部分譬ハ絃、響臺即琵琶ノ

第三類

音勢ヲ増ス器械譬ハ相圖即ノ笛其外

第四類

鐘ト夫ニ附屬ニタル樂ヲ奏スル器械

第五類

右産物ノ表數

第十六區

陸軍ニ付テノ事

第一類

兵隊組立方ト補佐ノ手段

第二類

兵士ノ手當即衣服武器ノ事

第三類

大砲ニ付テノ事

第四類

陸軍ノ工兵ノ事

第五類

陸軍ノ醫療ノ事

第六類

陸軍ノ養育ノ學問ノ事

第七類

海關及戰爭ノ米穀ノ事

第十七區

海軍ニ付テノ事

第一類

船ノ製作ニ付テノ事

第二類

川湖及海濱ニ往來スル小船海上ノ商船軍艦戰爭ノ支度兵糧ニ關係セシ事石ノ圖取雛形ノ事

第三類

舟ヲ作ル為メ用フル器械

第四類

舟ニ乘組ノ者ノ衣服及支度

第五類

航海ノ辨別ヲ為メ河海及陸地管轄ノ事警ハ燈明臺トク港ノ管ニ海防ノ手當

第六類

ロドローラニ警ハ航海ニ關係シタル海圖器械其他

工業ノ事 第十一區

第一類

建物其外ヲ管ハ義ニ付用非ル山カラ出ニ品物及之ヲ製スル手段ト之ヲ試ムル義ニ付用フル器械且右ヲ管ハ義ニ付用フル金類ノ品物及材水ヲ保セル為用フル手段ト器品

第二類

建物其外ノ基礎ヲ括ル為用フル品物手段譬ハ地ヲ固メル推棒風ノ器械此ヲ固メル為ノ器ノ名

第三類

地ヲ埋メ其外ノ業ニ用フル品物手段譬ハ洞ヲ穿テ土ヲ浚フ器械土ヲ運ヒ出ス手段

第四類

道路及鐵道ニ付用ユル品物ト手段譬ハ道ヲ平坦ス器械種々鐵道ノ手段譬ハ鐵道ニテ蒸氣車カ回轉スル路ヲ作ル空氣車ノ鐵道其外ノ手段鐵道ニ屬セシ溜水其委曲ノ手段及鐵道ニ關係セシ諸建物其他ノ仕法

第五類

海上ノ外水ニ付テノ工作譬ハ川及堀割ノ工業波浪ヲ防ク仕法

第六類

橋梁水流ノ作路トワイヤドクト路ト蒸氣車ノ路ノ雛形ト西圖

第七類

公院人家貸家牢獄病院學校芝居等ノ雛形積リ西圖其外建物ヲ作ル時重キ物品ヲ移シ又ハ引上ル手段所謂ニヤ々其類ナリ

外廉直ニテ家ヲ作ル為メ西園雛形及大工ノ唇械ト手段

第八類

右ノ建物ノ都合ヨク殊ニ人民ノ健全無差支トヲ得ル為ニ用
フル品物ト手段譬ハ光ヲ取ルト空氣ヲ純精ニスル為風ヲ引
ク丁暖氣ヲ取ル諸手段水流物ヲ棄ル場所堀雪隠引雷針ノ
事

第九類

農業ニ關係スル術ノ事譬ハ農業方ノ積リ書地中ノ水ヲ扱
ク術溝瀆農業ト牛馬ヲ牧フトニ關係シタル手段穀倉ト
穀物ヲ貯牛馬其外家畜小屋ノ事

第十類

耕作ニ關係スル立物譬ハ穀物ヲ挽ク手段焼酎及砂糖製造

場扱ヲ挽ク場所麥酒ヲ醸ス場所倉其外

第十九區

都市ノ人民ノ住居其内部ノ模様器品家具ノ事

第一類

諸開化國ノ人民ノ住家ノ實物及雛形画圖

第二類

其座敷ノ備ノ實物ヲ示ス事

第二十區

田舎人住居并其附屬ノ建物及内部ノ模様器品家具ノ事

第一類

諸開化國ノ田舎人ノ住宅ノ實物及雛形画圖

第二類

田舎人ノ家ノ部屋ノ備ヲ實物ニテ示ス事

第二十二區

各國人家ノ内部ノ用ノ為ニ出来セシ器品ノ事

第一類

陶器ノ事

第二類

織物及針ニテ作りシ品物

第三類

金類ニテ作りシ飾物

第四類

彫刻品ト種々ノ器品

第二十二區

美術ノ博覽場ヲ工作ノ為ニ用フル事

第一類

博覽場ニテ人々ニ示スヲ以テ其好尚ヲ感美ニシ且其術學ヲ開ク品物

第二類

其外博覽場ニ關係シタル事

第二十三區

神祭ニ關係スル術業ノ事

第一類

礼拝堂ノ飾物譬ハ壁画硝子ノ焼付画

第二類

礼拝堂ノ内部ノ事譬ハ礼拝壇説法壇ヲルゲンノ内物祭祀ノ

杯器ヲ入レル物

第三類

礼拝壇説法壇ノ飾物譬ハ磬臺神酒盃神起器燭臺礼拝壇
説法壇ノ帳帷及壇下ノ筵席

第四類

浴礼ト葬礼ニ用フル器具其外

第二十四區

古昔ノ美術ト術ノ工作ノ物品ヲ美術ヲ好ム人并古實家展覽會ハ出スベシ

第一類

古人ノ画

第二類

各種ノ美術ノ品物譬ハ青銅又ハ焼画陶器マヨリカ陶器形像ノ

雛形陶器フアイアンス陶器類

第二十五區

今世ノ美術ノ事

但一千八百六十二年ニ於テ倫敦ノ展覽會ノ後出来ヒシ文ノ品
物ナリ

第一類

アルミテクツル此ハ建物ヲ雛形積リ画圖且今世出来シ盛美ノ

建物ノ馬圖

第二類

製像術彫刻術記念錢ヲ作ル術

第三類

畫術ノ事及縮圖陶器焼画ノ事

第四類

出版ノ事譬ハ銅版鋼版腐蝕版木版

第二十六區

少年ノ養育ト教授及成人ノ後脩學ノ事

第一類

養育ノ事即少年ヲ降生ノ時ヨリ入學迄ノ間養育ニテ身
体ト知識ヲ良好ニスル事ニ關係シタル術譬ハ遊歩學校小兒ノ遊
園其遊ヒ及身体ヲ操練スル事

第二類

教授ノ事此処ニ學校及學校ノ仕法ヲ實備シ其雛形画圖其教授ノ
具教授ニ關係セシ書物新聞紙教授ノ種々ノ仕法ヲ著ハス事學校
ノ來歴ス々テスタック學校ノ組立方規則アリ乃左ノ四節ニ區別ス

第一節

民學校即小學校ノ事此処ニ盲人聾人啞人無智ノ者ノ教ニ
關係セシ奈モアリ

第二節

中學校ノ事即ヒミナレニシ此ハ學門ノ支度リヤールスクール
此ハ商法及工業ノ目
的アルモノノ學校

第三節

工部學校

第四節

大學校ノ事

第三類

成人ノ後脩學ノ事

此処ニ著述者ノ工業新聞紙及人々ノ才智ヲ益ス目的ノ
集會所公文庫ノ事アルヘシ

物品ヲ作ル器械第十三區ニ備ヘ置ケル其善惡ヲ決定スルヲ
其物品ノ區ニ關係スルモノニ委任シ其時器械師モ立合マベシ尤其
性質ニ因テ同時ニ數所ヘ入置ベキ品物ハ其物主ノ勝手ニ因テ
場所ヲ定ムベシ

増加ノ展覽會

第十一

諸發明ノ來歴

第十二

諸業ノ來歴

第十三

ケレモナ伊太利國ノ街ノ名ノ琵琶ヲ展覽ニ備フベシ

第十四

屑餘ヲ利益ニ用フル事ニ關係スル手段ヲ著ス事

第十五

諸品ノ價ノ來歴ヲ著ス事

第十六

世界ノ商法ヲ著ス事

暫時間ノ展覽會ノ事

第十七

生キタル家畜譬ハ馬、牛、綿羊、豕、狗、鳥類、野獸、魚類

第十八

死シタル鳥類及野獸肉及肉脂

第三

乳ニテ製シタル種々ノ食物

第四

圃ニテ作リシ新鮮ノ果物菜蔬花草ノ類

第五

農業、林木ヲ養フ、ニ害アル雜草木ノ類

第八節

正月十八日

自今新任ノ官員御一新以來ノ奉職履歷別紙雛形之通御達書全文相認奉任以上ハ式部寮判任ハ各省各縣ハ可差出事

書式

本貫屬族

元本貫
旧名某

苗字 實名

通稱
土中幾歲

一 年号干支何月幾日

一 任某官 或ハ某職被 仰付候事
申付候事

但御達書全文可書載事

同上

一 免本官 或ハ某職被 免候事
申免候事

但同上

同上

一 内外御用出張

南告全書月台卷第...

...

但同上

同上

一賞典

但同上

右之外職務ニ關係ノ儀ハ一切可書載事

第九號

同日

從前之制服被廢止候条當分ノ中非常ノ節タリト氏平常之通可為勝手事

第十號

同日

今般東海道驛々傳馬所被廢候条諸官員通行之節休泊

等總テ相對ヲ以相當ノ旅籠料相拂驛方ノ厄介ニ不相成様心付可申事

第十一號

同日

東海道佐屋路道換更ニ尾川海西郡福田前々須丙驛ノ被置候条此段相違候事

第十二號

府縣ハ正月十九日

府縣ニ於テ金穀ヲ與ル輕賞ノ儀ハ庫千十一月布告同十二月辨官ヨリ相違置候処右ハ相廢シ今般更ニ左之通相違候事
判任以下平民ニ至ル迄褒賞ノ儀ハ事ノ細大ヲ不問伺

之上可致施行若二候得共速隔ノ地ニテ臨機ノ輕賞同
ニ經候テハ嘗譽ノ機會ヲ失ク候類等ハ一人ニ付金ハ
二千疋米ハ二俵迄ハ地方官ノ見込ニ委任候条緩急見
計不差迫分ハ以今制限内ト雖氏伺之上可取計且臨機
施行濟ノ分モ其節々巨細可届出事

第十三節

府縣へ同日

水卒徵募之儀ハ昨未年二月及布告候必定員已ニ相満
候ニ付以來願入有之候得ハ名前府縣廳へ留置追テ布
告之節申出候様可致尤多年西洋形船ニ衆組業前拔群
熟達ノ者ハ別段檢査ノ上收用可致候ニ付前以名前兵
部省へ可届出事

第十四節

同日

大津縣滋賀縣ト改稱相成候事

第十五節

正月廿日

別紙之通府縣へ御達相成候ニ付此旨可相心得依テ各
種新帛幣相添此段相達候事

維新以來太政官并民部省發行ノ金札製造ノ粗ナルニ
ヨリ贋造ヲ謀ル者問々有之且又從來旧藩々ニ於テ發
行ノ金銀錢札ハ其管轄限通用ノ儀ニ付一般流通ノ便
ヲ失ヒ其弊害不少依之今般御多端ノ折柄莫大ノ入費

ヲ不被為紙精工ノ新紙幣百圓五十圓二十圓十圓五圓二
圓一圓五十錢二十錢十錢五錢ノ各種ヲ製造シ未至中
年二月十五日ヨリ右各種ノ内差向一圓五十錢二十錢
十錢ノ四種ヲ發行セシメ追々製造成以ノ都合ニヨリ
從來官藩兩様ノ金札ト引換候条厚キ御趣意ヲ體認シ
無疑念通用可致尤一般引換ノ都合ハ猶追テ相違候儀
モ可有之依テ各種新紙幣相添此段相違候事

○

第十六條

同日

官等別紙之通被定候ニ付此旨相違候事

第十七號

正月廿二日

○ 是迄御國恩其加之為、米金獻納頒出候者不少候、自
 今被差止候、尤郷學ヲ開キ病院ヲ興シ或ハ水利堤防其
 他一切ノ諸工作及ヒ濟貧恤窮等ノ費用ヲ差出度志願
 之者ハ奇特ノ儀ニ付於地方官開届其施設ノ方法委細
 取調可申出事

第十八號

○ 驛通東京都出張所被廢是迄之通郵便役所被置候事

第十九號

來二十六日 仁孝天皇御例祭被為行候事

第千號

來二月四日 祈年祭 付休職ノ事

第千一號

來二月四日 於神祇省祈年祭被為行同日於官中 御拜被為在候事

但當日輕重服者參 朝可憚事

第千二號

正月廿七日 左院中左ノ通被置候事

大掌記 八等 權大掌記 九等

中掌記 十等

權中掌記 十一等

少掌記 十二等

權少掌記 十三等

第千三號

同日 去十八日 相達候第八號之布告中奏任以上ノ式部寮

ハ可差出旨相達候處自今ハ史官ハ可差出事

第千四號

同日 御名睦字自今欠画ニ不及候事

但惠統二字可為同様事

第千五號

諸縣 正月廿九日

舊藩ニ於テ京攝其外ニ出張所等有之候分早々引纏候
様相違置候處縣々區々ノ取計有之候テハ不都合ニ付
右出張所藏屋敷等悉皆有形ノ儘上邸可致候就テハ差
向キ京坂ハ京都大坂兩府へ引渡其外ハ取調可伺出候事

第廿六號

自今元旦上巳端午七夕重陽 天長節ノ外參賀被廢
候事

第廿七號

正月廿九日

從來世間ニ流布ノ廣達ニ判既ニ引換相成候得共若
相殘居候令有之候ハ斷取ノ上地金トシテ致賣買候

儀ハ自今可為勝手事

第廿八號

同日

銃砲取締規則別紙之通被定候條來ル四月ヨリ規則之
通可相守事

銃砲取締規則

第一則

一大小銃并彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ外取
扱致間敷右定員ノ商賣ハ其地方管廳ニ於テ精選ノ
上免許狀可差遣事

但東京大坂ノ儀ハ武庫司ニ於テ管轄スヘキ事

免許商賈、定員

一 府下 各五員

二 縣下 各三員

一 鎮臺分掌 各一員

但府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケズ

一 開港場 各五員

右免許差遣候商賈、姓名住所等東京武庫司へ届クハキ事

第二則

一 免許商人タリトモ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ竊ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヲ官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照シ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳へ願出免手形

ヲ受其員數ヲ以テ買取可申事

但東京大坂ノ儀ハ武庫司へ可願出事

第三則

一 免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セズ買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ物ハ免手形相添毎月其管廳へ可差出其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ管轄鎮臺へ差送可申事

但諸鎮臺ヨリ毎歲正月七月兩度半ケ年明細帳ヲ以テ東京武庫司へ差送り可申尤東京大坂ノ儀ハ武庫司ニ於テ取締可致事

第四則

一 彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミヲ計

リ勝手ノ場所ハ差置問敷兼テ其地方管廳ハ願出差
圖ヲ受相圍可申事

但東京大坂ノ儀ハ武庫司ハ願出ベキ事

第五則

一華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ
銃砲并彈藥類ヒストールニ至ル迄私ニ貯蓄不相成
就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳
ニ持出東京大坂ハ持出ハ武別紙銃砲改刻印式ノ通り番号
官印ヲ受可申他人ハ譲リ與ヘ候節ハ第二則ノ手續
ニ從フヘシ

但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通りタルヘシ
銃砲改刻印ノ式

干支何番 武庫司或ハ何府縣

右所持ノ人名番号等逐一書記シ置管轄鎮臺ハ届

出鎮臺ヨリ東京武庫司ハ差送り可申事

免許ノ銃類

一和銃四文目八分五以下

一各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレトモ霰彈ヲ用

ユルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其

管廳ハ届出其廳ヨリ東京武庫司ハ差出可申東京大坂

武庫司ハ届出ヘシ直ニ萬一軍用獵用銃ノ差別難相

辨者官ハ尋出候得ハ検査ノ上免許ノ證印ヲ据ヘ

可相渡事

第六則

一 免許獵人ノ外撰リニ銃獵致問敷銃獵致度モノハ其管廳へ願出候得ハ吟味ノ上別紙ノ通其廳ヨリ免許獵札可差遣事

但免許獵人ノ姓名ハ其管廳ヨリ東京武庫司へ可届出事

（免許獵札ノ式）

第何號

何郡何町何身分
何某

右銃碗獵差免候事

年号千支

何縣印

第七則

一 銃碗彈藥下々ニ於テ撰テニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明ニ為試製作致度者ハ其管廳へ相願管轄鎮臺へ届出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎮臺ヨリ武庫司へ差送り検査ヲ遂ケ採用可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄砲銃并彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記ニ管轄廳へ為差出其廳ヨリ東京武庫司へ可差出事

但東京大坂ノ儀ハ賣買ノ者ヨリ直ニ武庫司へ可届

出事

右之通ニ候事

第廿號

各府縣貫屬卒ニ内役前番代ノ節抱替等ノ稱ヲ以テ其
俸等ハ禄高ヲ給與シ自然世襲ノ姿ニ相成居候分ハ自
今士族ニ可被 仰付候條調書ヲ以大藏省ハ可伺出カ
家禄ノ儀ハ役前ノ通可相心得事
但新規一代限抱ノ輩ハ平民ニ復籍セシメ給禄ハ是
迄ノ通可遣事

第三號

高知縣吾川郡第九區

宗津村修驗

教 覺

- 一年齡三十歳
- 一 丈五尺二寸計
- 一 顔丸ク赤キ方痘痕有之
- 一 眉太ク眼丸カ方
- 一 髪シヤシ切
- 其節着服
- 一 織地空色單物
- 一 鼠色單物
- 一 黒絹ヒフ

高知縣吾川郡第九區

一紫ゴロ帯

右之者高知縣管内ニ於テ去冬以來訛言ヲ唱ヘ愚民ヲ
誑惑シ黨類ヲ集候間本月六日同縣ヨリ及捕縛候處致
逃走行衛不相分候間各府縣共嚴重遂搜索捕縛候ハ
早々司法省へ可差出候事

附錄

史 正月四日

明五日宴會ニ付休暇之事

正 諸省へ 正月八日

自今布告之順次ヲ以本文ノ肩ニ番号ヲ朱書シ差出シ
候間各省ヨリ布告致シ候節モ同撮取計可有之候且後
日取消シ或ハ照準等ノ儀相達シ候節ハ千支第何号ノ
布告云々ト相認可申此段相達候也

史 正月十日

来ル十八日歌御會始彼為在候間判任官ニ至テ歌道
ニ心懸ケ有之輩ハ詠進可致事

御題 風光日々新

史

正月廿二日

博覽會品目

日本明治五年三月十日ヨリ五月十七日
西曆一千八百六十二年四月十七日

List of articles which will be exhibited in
Trade of Japan for fifty days from (Meiji
5th year 3rd month 10th day) April 17th 1872

茶	生糸	絹糸	漆	西陣織物
Tea.		Silk thread.	Spun thread.	Kishijin (ethnographic kinds)
	麻	Flax.		

絹布類	various kinds of silk cloth.	
麻布類	various kinds of linen cloth.	
綿類	綉布類	bottom cloth.
金銀細物	gold and silver ware.	
錫鐵細物	tin and iron ware.	
新古漆器	new and old lacquer ware.	
新古漆器	new and old yoked lacquer ware.	
陶器	earthen ware.	crystals.
象牙細工	ivory (ornamental) ware.	
竹細工物	Bamboo ware.	glass ware.
鼈甲細工	Tortoise shell ware.	Swords.
鐵葉細工	Iron ware.	Engravings.

正非... 記一

新吉銅器	New and old copper ware.		
木細工物	Wooden ware.	手藝類	Tools.
新吉書畫	Modern and modern writings and pictures.		
錦繪	Water color paintings.		
押繪	Ornamental figures in silk and gold.		
毛植細物	Ornamental hair work.		
扇團扇	Fans (various kinds)		
提燈類	Lanterns (various shapes and colors)		
皮革類	Leathers (various kinds)		
紙類	Paper (various kinds)		
砂糖	Sugar.	寒天	Sunglass.
礦石類	No metals.	化石類	Fossifications.

石炭	Coal.	石灰	Lime.
瓦類	Tiles (various kinds)		
植物類	Plants (various kinds)		
藥品	Medicinal drugs &c.		
生蠟	Wax.	烟草	Tobacco.
油類	Oil (various kinds)	穀類植物	Cereals.
菓物類	Fruits (various kinds)		
菓子類	Confectionary (various kinds)		
魚鳥類	Fishes and Birds.	干魚類	Dried fish.
干貝類	Dried shell fish (various kinds)		
甲冑	Helmet and coat of mail.		
弓箭	Bows and Arrows.		

Handwritten notes or labels on the left margin.

馬具	Horses (Stable)	諸種衣服	Clothings.
樂器	Musical instruments.		
錢幣	Monies and Modern Coins.		
貝類	Shell fish (various kinds)		
海草類	Edible sea weeds.		
其他數品	Beside a great many other articles.		
Photo in Japanese society of exhibition. 日本京都博覽會社			

史

正月廿四日

来ル廿六日 仁孝天皇御例祭ニ付正院奏任官以上之
 輩直垂着用第十二字ヨリ第四字迄参拜可有之候也
 但服者参拜ニ不及候也

追テ道筋例之通 賢所神門外ニ於テ式部寮出張へ必
 ス名刺差出シ参拜可致候事

史

正月廿五日

来ル二月四日於神祇省祈年祭被為行候条正院奏任官
 之輩直垂着用第一字ヨリ第三字迄参拜可有之候也
 追テ服者不及参拜候也

在學全書明治五年第一

三十一

839

161

官板

御用御書物師

北畠茂兵衛

村上勘兵衛

山中市兵衛

